

出向く宮農レポート

～にんじんの栽培について～



中部宮農センター
伊藤 和成

2月にアグリスクールを卒業された石川可奈子さんは、アグリスクール受講中に日進市に土地を借り日進産直友の会に加入。栽培した野菜を日進園芸センターへ出荷しています。

将来は体の不自由な方でも体験できる観光農園を目指しており、その一環として化学農薬・化学肥料を使わない方針で多品種の栽培に取り組んでいます。

さて、今回はにんじんの播種の準備にお邪魔しました。この時は2月の初旬。早蒔きをすることで収穫、出荷の早出しが狙えます。ただ、この寒い時期の早蒔きには難点もあります。にんじんの発芽適温は15～25℃であり、低温では発芽しにくいいため、マルチや不織布といった資材を活用し、適温に保つ必要があります。また、乾燥には要注意。にんじんのタネは吸水力が弱く、発芽までに土壌が乾燥してしまうと発芽率が下がってしまうため、こまめな水やりも必要です。

肥料には、草木灰の使用を提案しました。草や木を燃やした灰であるため、有機質の肥料として使用できます。園芸資材の商品として各グリーンセンターで購入できます。根の育成を促進するカリウムを多く含み、水溶性で速効性があるため、根菜類であるニンジンの施肥に用いることができます。ただし、石灰分を含むため施肥しすぎると土壌のpHを酸性からアルカリ性に傾けてしまい、葉の黄変や成長障害を引き起こす可能性があるため、注意が必要です。

他にも有機物を発酵・分解させたぼかし肥料もおすすめです。発酵させた有機物を微生物が分解し、植物が養分として吸収しやすい形に変えられているため、早めの効果を期待できます。

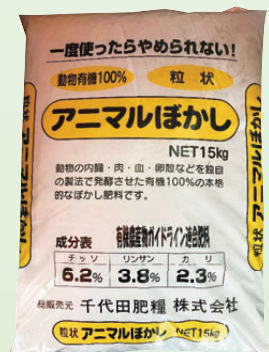
農薬や化学肥料に頼らない農業は、1つ1つの知識や技術を持ち寄って、地道に進んでいく必要があります。
今後も定期的な訪問を通じてサポートしていきます。



草木灰



アニマルぼかし



ぼかし肥料の一例です